

生物情報収集調査

上原匡人*, 仲盛 淳, 島田和彦, 秋田雄一, 太田 格, 海老沢明彦

マチ類の資源回復に向けて、沖縄県、鹿児島県および独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所(以下、西水研)が共同で、2005年より南西諸島海域においてマチ類の資源管理の取り組みを実施している。平成25年度もこれまでと同様に、県内のマチ類の水揚げの9割以上を占める沖縄県泊魚市場有限責任事業組合鮮魚卸売市場において、漁場別の漁獲量や体長組成など漁業情報の収集を実施した(調査回数:96回,平均8回/月)。本調査で得られたマチ類の漁業情報は、西水研が行う平成26年度マチ類(奄美・沖縄・先島諸島)の資源評価に活用され、我が国周辺水域主要魚種の資源評価(参照:我が国周辺の水産資源の現状を知るために

<http://abchan.fra.go.jp/digests26/details/2643.pdf>)にて

報告されているので、詳細は割愛する。また、マチ類の移動生態を明らかにするために、西大九曾根および東大九曾根で、漁業調査船「図南丸」により底立延縄を用いて調査操業を行った。西大九曾根での調査操業では、外国漁船団による妨害もあり、調査を中止せざるを得ない事態も生じた。東大九曾根での調査操業では、ヒメダイ3尾とオオヒメ19尾を釣獲し、活力のあったヒメダイ2尾とオオヒメ12尾にダート型タグを装着、OTCによる標識を施し、船上より放流した。一方、ヒメダイ1尾(39 cm FL)とオオヒメ1尾(40 cm FL)については、タグ装着による魚体への影響と耳石輪紋の年輪としての有効性を検討するため、活かして持ち帰り、飼育試験を試みたが、沖縄美ら海水族館へ搬入後、死亡した。



図 西大九曾根において図南丸のレーダーで確認された漁船団(左:目視では100隻以上確認)と投縄中に針路を横切ろうとした外国漁船(右)。

*Email : ueharmst@pref.okinawa.lg.jp